

せん孔細菌病 枝病斑の切除と対策

4月は風が強い日が多く、せん孔細菌病の感染拡大・多発が心配されます。

せん孔細菌病発生園では、薬剤防除と併せて、春型枝病斑の除去が必須作業となります。特に、春型枝病斑は開花期から確認されますが、病斑をそのまま放置しておくと感染拡大につながります。春季に枝病斑を除去することで、夏季の果実感染が軽減されます。

発生園での防除ポイント

- ① ……「枯れ枝の除去」と「春型枝病斑の除去」 園外への持ち出し
- ② …… 重点防除時期の薬剤散布は、10日間隔で必ず降雨前に実施する
- ③ …… SSでの散布は風圧を抑えて、ゆっくりと丁寧に
樹全体に薬液がかかる程度の風圧で丁寧な散布をこころがけましょう。
- ④ …… 樹上灌水は可能な範囲で止める
樹上散水によって、せん孔細菌病の感染が広がる恐れがあります。ただし、玉肥大への影響や灌水を必要とする品目もありますので、ご注意ください。

① 枝の先端が枯れる症状



② 枝の中間部の芽が枯れる症状



【上記の症状が見られる場合は、見つけ次第、切除しましょう】

着果管理について

◎予備摘果（結実確定後）

- ・満開3週間後（5月5日頃）から結実の良い品種中心に摘果を始める。
- ・着果位置は、結果枝の側方、斜め下方の果実を残す。
- ・長果枝（30cm以上）は2～3果、中果枝（10～30cm）は1～2果、短果枝（3～10cm）は1果着果させる
*表1参照
- ・順序は、極早生種・白鳳系・あかつき・なつっこ等（結実の良い品種）→川中島白桃・ネクタリン→黄金桃とする。

表1 結果枝別着果量の目安		
結果枝	予備摘果	仕上げ摘果
長果枝	2～3個	1～2個
中果枝	1～2個	0～1個
短果枝	0～1個	0～1個

（果樹指導指針より）

◎仕上げ摘果

- ・満開40～50日後頃に実施（本年は、5月25日～6月10日頃が実施目安）
*H28 平岡地区満開日 4/17
- ・成木10a当りの目標着果量は、10,000～12,000果とする。樹勢が弱い場合は、着果制限する。